

# 都市計画道路 西普天間線

都市機能と水・みどり・文化が調和した、「ウォーカブルなまち」のシンボルロード

- 計画区間：宜野湾市伊佐～宜野湾市新城
- 計画延長：約1,840m
- 供用区間：約1,170m
- 橋梁延長：約90m
- 車線数：片側1車線
- 幅員：20m標準
- 車道幅員：9.0m
- 歩道幅員：5.5m×2



# 宜野湾市道 喜友名23号

交通アクセスの利便性向上と、津波災害時における避難経路の確保を実現させた「奇跡の道路」

- 道路全長：598m
- 共同使用区間：約350m
- 橋梁延長：216.4m
- 車線数：片側1車線
- 幅員：10～11m
- 車道幅員：7.5m
- 歩道幅員：2.5m(片側)



# 都市計画道路 西普天間線 宜野湾市道 喜友名23号 開通しました！



## 想いが架ける「奇跡の道路」

2月28日より供用が開始された「宜野湾市道 喜友名23号」は、西普天間住宅地区から国道58号へのアクセスを確保し、利便性を向上させるとともに、津波災害時の避難経路として、地域住民の安全を確保することを目的に整備が進められました。

整備にあたっては、未返還地であるインダストリアルコリドー地区を通過する必要があったため、日米両政府間で調整いただき、平成27年度の日米合同委員会において、共同使用により米軍施設内に約350mの道路を供用することについて合意がなされました。その後、防衛省からの補助を活用して道路の建設が進められてきました。

共同使用区間には、約216mの橋梁を架け、同地区をまたぐ形となる全国でも珍しい道路であり、橋梁には、昔この地域の地名であった集落名からとった「いざばま橋」の愛称がつけられています。

## 沖縄健康医療拠点の大動脈

西普天間住宅地区土地区画整理事業の一環として整備が進められてきた西普天間線は、国道58号と県道宜野湾北中城線(県道81号)を結ぶ重要な道路として、また、同地区のメインとなる幹線道路として整備が進められてきました。

同地区には貴重な自然環境である枯れ谷地形「イシジャー緑地」が残っており、その環境保全を目的として架けられた「安仁屋(アンナ)橋」や、西海岸への展望や自然緑地を活かした景観の確保および災害に強いまちの形成に向けた「無電柱化」への取り組みなど、高質化した歩道デザインで「歩くのが楽しい」ウォーカブルなまちづくりに沿った道路となつていきます。



自然環境に配慮し、光の漏れを最小限に抑えた低位置照明を採用しています。

西普天間住宅地区は現在、基地跡地利用の先行モデル地区として、琉球大学医学部および琉球大学病院を中核とした「沖縄健康医療拠点の整備事業」を行っており、拠点の形成を中心としたまちづくりを推進しております。

それに先駆け、今回、国道58号線と西普天間地区を結ぶ「宜野湾市道 喜友名23号」、県道宜野湾北中城線と西普天間住宅地区を結ぶ「都市計画道路 西普天間線」の2つの道路が開通しましたので、ご紹介いたします！

※西普天間線については、部区間開通となります。



喜友名23号・西普天間線の開通により、国道58号から県道宜野湾北中城線へのアクセスが可能となりました。



未返還地区に架けられた、通称「いざばま橋」

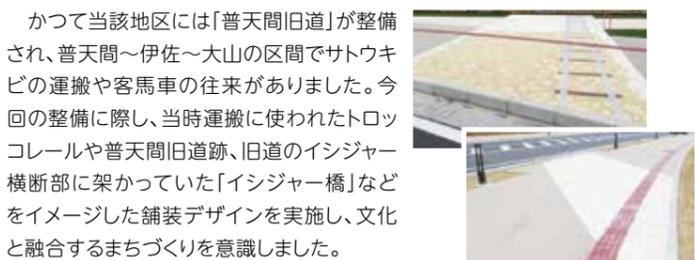
## 3/23 都市計画道路西普天間線および宜野湾市道喜友名23号開通式



都市計画道路西普天間線および宜野湾市道喜友名23号開通式が開催され、道路開通にご尽力いただいた皆さまのビデオメッセージや、多くの来賓の皆さまから祝辞をいただきました。佐喜眞淳市長は、西普天間線が通る西普天間住宅地区について「引き続き各関係機関と連携して同地区における公共施設の整備に取り組んでまいります」と話したほか、喜友名23号について「日米両政府のご理解、そして多大なるご尽力の賜物であり、関わっていただいた皆さまの強い思いのもとに架けられた「奇跡の道路」です」とあいさつしました。また、本田太郎防衛副大臣は「今般の道路開通は、地域住民の生活利便性向上に資するものであり、目に見える形で基地負担を軽減するものです。今後とも、政府の最重要課題のひとつとして、沖縄の基地負担軽減に全力で取り組んでまいります」とあいさつしました。



西普天間住宅地区全線において「無電柱化」を行うことで、台風等災害による電柱倒壊や断線による停電被害がなく、安定したライフラインの供給が行える、災害に強いまちになっています。また「ウォーカブルなまちづくり」を目指し、歩道は白系舗装で統一、ビューポイントは石張り舗装としました。ベンチなどの休憩施設やフットライトなどの夜間照明を設置することで安全にウォーキングができるような仕掛けを施しています。



西普天間線に架かる新たなランドマーク「安仁屋(アンナ)橋」は、ボルトを使用しないことで耐性を高めるとともに、同地区の景観と調和するアーチ橋となっています。橋下には、歴史的な遺産である古墳群や、貴重な動植物の生息地となっている「イシジャー緑地」が広がっています。